

連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくらう!!

労福協

秋号

Shizuoka Rofukukyo Dayori
Autumn 2012

だより

(一社)静岡県労働者福祉協議会

国際協同組合年記念演劇“おもひでぽろぽろ”

賀川豊彦記念館と防災センター訪問

反貧困全国キャラバン in 静岡

地区労福協 新会長の紹介

福祉基金協会(ALWF)からのお知らせ



青年団活動が活力の源?

新企画

事業団体職員・労福協役員へ贈る

自主福祉運動の歩み

新企画

地区労福協三役の
23地区リレートーク

人物登場



助け合いの歴史と未来を歩む

西 義人 氏

全労済静岡県本部は、2012年6月10日で創立55周年を迎えました。また、本年は国連が定めた「国際協同組合年」であり、これまで以上に労済運動の取り組み意義を社会的に広げていく必要があることや、東日本大震災から1年半が経過し、改めて防災・減災対策と生活再建対策の取り組みが強く求められています。

全労済静岡県本部では、経営委員・運営委員の方々を中心に、2012年7月3日～4日と7月4日～5日の2班に分かれて神戸・『賀川記念館』とあわせて『阪神・淡路大震災記念／人と未来防災センター』で体験学習活動を実施し、94名に参加いただきました。

【賀川記念館】

賀川記念館参事の西義人氏による講演から、労働運動や協同組合運動の草分け的存在である賀川豊彦氏の「志」や「実績」等を学習しました。あわせて施設内の映像やパネル等を見ながら、労済運動の意義・課題等を考察しました。

賀川豊彦氏は、貧困にあえぐ人々の福祉の向上を目指して、労働運動・協同組合運動・平和運動に取り組みました。その活動は神戸に留まらず、関東大震災の救援を契機に全国に広がり、福祉・教育・医療・

賀川記念館での
講義の様子

労働・協同組合・平和・人権・共生という、暮らしを支える根幹を築くことに生涯を捧げられました。

【阪神・淡路大震災記念／人と未来防災センター】

1997年1月17日に発生した「阪神・淡路大震災」における様々な教訓を踏まえて大規模地震に関する体験学習をしました。これまで日本や世界で起こった大規模地震に関するブースをはじめ、2011年3月11日の東日本大震災に関する特別ブースや記録映像等も幅広く設置され、改めて被災後の生活再建の現実と「備え」の重要性について学習しました。

参加いただいた皆さんより、「労働運動の原点となる考え方、歴史を学ぶ良い機会だった。」「今後の活動に活かしたい。」との声を多数いただきました。また、『人と未来防災センター』を東日本大震災後に訪れたということもあり、改めて防災意識の向上につながったと同時に被災地の復興を願う声もいただきました。

今後も、自主福祉運動の発展に向けて協力団体の皆さんと一体となった活動を展開し、全労済の理念である「みんなでたすけあい、豊かで安心できる社会づくり」を目指していきます。

(全労済静岡県本部事業推進部)

防災センターの様子



2班の集合写真

開幕前

挨拶する
静岡県実行委員会
夏目会長

国際協同組合年記念演劇

ミュージカル

おもひで ぽろぽろを開催!

【静岡県実行委員会の構成団体】

県下農協・漁協・森林組合・生協・労働金庫・労福協



2012 国際協同組合年

2012年は国連が定めた「国際協同組合年(1YC)」です。これは、世界の協同組合が果たしてきた、社会・経済の発展や貧困の根絶への貢献が高く評価された証であり、将来にわたり協同組合がよりよい社会を築くことへ寄与するよう期待されたものです。

国際協同組合年静岡県実行委員会では、協同組合の社会的な認知度を高めるため、様々な活動を展開しています。今回は、関係団体の役員だけでなく広く一般市民を対象にした記念演劇「ミュージカル おもひでぽろぽろ」について報告します。

1982年の夏、都会で暮らす女性(27歳OL、タエ子)の前にある日突然、小学5年生の自分が現れ、物語は始まります。家族はタエ子が病気になったかと心配する中、タエ子は勤務先の夏休みをとり5年生の自分といっしょに田舎にでかけます。結(ゆい)という協同の精神が息づく山形の農村を訪れ、土に触れ、地域の人々との出会いを重ねる中で、人間性を取り戻して行く姿を描いた演劇です。スタジオジブリ作品をはじめ、記念演劇は、残暑が厳しい2012年8月24日(金)に行われました。会場の静岡市民文化会館の中ホール

農村で出迎え

心が開けて

土や人とのふれあい

終演後
出演者が見送り

(アンケートより抜粋)

- ミュージカルは大好きで歌声のすばらしさにいつも感動します。全員が上手で歌だけでも聞きたいくらいでした。(50代女性)
- 農業の現在のテーマとも一致したみごたえのある内容でした。碓井さんの歌と演技、団員の皆さんの演技素晴らしかったです。(60代女性)
- この企画にピッタリの内容でした。もっと多くの人、若者や子どもたちが見るとよかったと思います。すばらしい演技をありがとうございました。これからも感動を与える仕事、がんばってください。
- いなかにあこがれるところに共感できた。静岡も自然が多いので、テーマにしてくれてうれしい。無農薬も大好きなので、気にかける人が増えたらと思います。(20代女性)

前には、開場の14時30分を待つ行列が1時間以上前から並び始めました。入場者は約650人、平日の日中でもあり女性同士のお仲間、夏休みの子ども連れ親子など大勢の方々に来場いただきました。冒頭、静岡県実行委員会の夏目善宇会長から挨拶があり、いよいよ開幕。ミュージカルはテンポよく進みます。原作(アニメーション映画)を見ていない私には、ストーリーに多少の疑問がありましたが、さすがに劇団・わらび座、大きな声と歯切れのよい演技や歌とダンスにも感動しました。閉幕後には団員の方もお見送りいただき和やかな内に終演となりました。協同組合年を記念したこのミュージカルは、多くの方々に協同の心をテーマにした文化活動として企画されました。いただいたアンケートでも好意的な声が多く実行委員会事務局としても安堵したところでした。

労福協って なあに!



静岡県実行委員会
作成のうちわ

貧困や格差是正を! 「反貧困全国キャラバン」in 静岡

社会的に蔓延し深刻化している格差と貧困の拡大を市民運動の力でくい止めようという「反貧困全国キャラバン2012」が県内でも実施されました。この運動は「反貧困全国キャラバン実行委員会」の下、静岡県内では「クレサラ被害をなくす県民会議」を母体に組織した「県実行委員会」(県労協、県弁護士会、県司法書士会、県労金、全労済県本部、県生協連、県福祉基金協会)を中心に展開しました。

9月5日に県実行委員会の事務局をとめる県労協の吉岡理事長が県庁の記者クラブで、望月知子県就業支援局長に川勝県知事あての要請書を提出し記者レクも行いました。

《要請内容は5項目》

- 1 貧困対策全般：自殺者が14年連続で3万人超すなど、深刻な社会現象に歯止めを。
- 2 生活保護行政：一部の誤った報道によってほんとうに生活保護が必要な人たちにしわ寄せがい

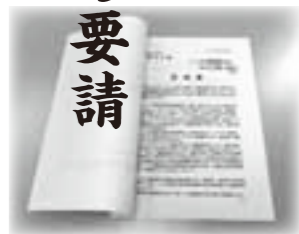


かないような対策を。

- 3 餓死・孤立死対策：地域から餓死・孤立死を生まないように幅広い連携・協力体制の構築を。
- 4 生活支援戦略：寄り添い型・伴走型の就労・生活支援を。
- 5 公契約条例：公契約の下で働く人たちの適正な労働条件の確保を。

8日に全国を巡るキャラバンカーが浜松市に到着。同市内のえんてつホールで県司法書士会によるシンポジウムを開催し、9・11日にかけて浜松・静岡・沼津の各市で街頭キャンペーンを実施しました。キャンペーンでは、実行委員会の構成組織や浜松・静岡・沼津の各地域労協等の皆さんにご協力をいただき、キャラバンカーでの市内街頭アピール、駅頭で「情宣うちわ」の配布、署名活動などで反貧困を訴えました。このキャラバンは10月20日に東京でゴールとなりますが、これからも粘り強く訴え続けることが肝要だと思います。

県知事に 4項目の要請



吉岡理事長から川勝知事へ

静岡県労協の吉岡理事長は連合静岡と共に8月28日に県庁内で川勝知事と面会し、例年行っている行政要望を行いました。

県労協からの要請項目は、

- ①福祉事業団体が行っている公益事業への広報連携支援
- ②「地域役立事業」への支援
- ③東海地震を想定した地域の防災・災害対策に関する連携支援
- ④「パーソナル・サポート・サービス事業」に関する支援検討を要請しました。

①に関しては、特に福祉基金協会が行っている「暮らし何でも相談」への支援です。この「暮らし何でも相談」は、広く県民が利用でき公益性が強いダイヤル相談事業です。より多くの方に利用いただくには県や市町の広報への定期掲載が有効であり支援を要請しました。また、④の「パーソナル・サポート・サービス事業」については、国の補助事業であり県内では浜松市で展開されています。生活や就労でさまざまな課題を抱える自立が困難な方を対象に、サポートが相談者のニーズに応じて、一貫して寄り添い伴走しながら支援を図ることで自立を促進することを目的に2010年度より全国26地域で実施されています。静岡県でも事業展開の検討を要請しました。

Zenrosai 全労済県本部 第3回 代表者会議が開催されました



全労済県本部は7月30日(月)第3回代表者会議と静岡労済第57回通常総代会を静岡市内のホテルで出席総代146名(定数150名)を得て開催されました。

佐竹本部長からは冒頭、①県本部で被災受付件数が過去最大(7,173件)となった昨年9月の台風15号と今年6月の台風4号の災害について、被災受付状況、現場審査や共済金・見舞金の給付状況などの報告があり、最後のお一人まで迅速・丁寧な支払いに引き続き全力を尽くしている。②2011年度の事業は、マイナス目標であったが、自然災害共済などの伸長から件数・口数とも大きな改善を図ることができた。給付金額では122.8億円余となり自然災害等により増加した。③リーマンショック以降にいたった事業悪化は2011年度で底を打ったと思われる。引き続き組合員・協力団体のご協力をいただき前進を図ってゆきたい。④2012年は国連が定めた「国際協同組合年」。全労済県本部でもその一環としてイベントを実施している。また静岡労済が1956年6月に誕生して今年55周年の年。「みんなで助け合い、豊かで安心できる、社会づくり」の理念のもと、これからも共済協同組合として社会的役割をしっかりと果たして行きたい。との挨拶がありました。

引き続き、行われた審議・付議事項はすべて提案どおり承認されました。なお、経営委員の退任に伴う補選で新任3名が承認されました。

地区労福協 新会長の紹介

(敬称略)

SUSONO Area

裾野地区労福協



中村 和孝

ナカムラ カズタカ

- 37歳
- 出身組織名／トヨタ自動車東日本労働組合
- 役職名／支部長

- ◆モットー／情けは人の為ならず
- ◆愛称・ニックネーム／かず

新会長の抱負について…

裾野地区の福祉向上に貢献できるよう、また、会員相互の交流が活発になるよう活動していきます。

最近、「感動」したこと・嬉しく思ったこと…

ロンドンオリンピック。スポーツで競うことのすばらしさ、選手の一生懸命さに感動しました。

「助け合い」から連想することは何でしょうか？…

人と人とのつながり。東日本大震災の時には、改めて人と人のつながり、助け合いを実感しました。

ご当地イチオシの〇〇を教えてください。…

「富士山」夏の夜、富士山を登るいくつもの明かりが見えると「ガンバレ!」って応援してしまいます。

SHIMIZU Area

清水地区労福協



岩崎 真孝

イワザキ マサタカ

- 48歳
- 出身組織名／小糸製作所労働組合
- 役職名／中央副執行委員長

- ◆モットー／相手を思いやる気持ちを忘れずに

新会長の抱負について…

清水地区の会員の皆さんが楽しく・喜ばれる活動を心掛けて、役員と心合わせて頑張ります。

最近、「感動」したこと・嬉しく思ったこと…

最近始めたゴルフに、仲間と一緒にラウンドして遊んでくれることが嬉しく、感謝しています。

「助け合い」から連想することは何でしょうか？…

自助・共助・公助の”三助の精神”。東日本大震災で改めて助け合い精神の重要性を感じました。

ご当地イチオシの〇〇を教えてください。…

清水といえば、”清水エスパルス”。サッカー王国・静岡市民として応援していますので皆さんも宜しくお願いします。

FUJI Area

富士地区労福協



西山 延正

ニシヤマ ノブマサ

- 54歳
- 出身組織名／ジヤトコ労働組合
- 役職名／日産労連 静岡地域本部 本部長

- ◆モットー／いつも元気に
- ◆愛称・ニックネーム／ニシ

新会長の抱負について…

明るく、元気な地域となるように、地域の皆さんと連携をとり、労福協活動を推進していきます。

最近、「感動」したこと・嬉しく思ったこと…

ロンドンオリンピックでの、日本人選手団の団結力

「助け合い」から連想することは何でしょうか？…

共存・共栄・共生できる社会を作っていく事

ご当地イチオシの〇〇を教えてください。…

商店街でも力をいれている、つけナポリタン

HAMAKITA・TENRYU・HOKUEN Area

浜北天竜北遠地区労福協



中馬 義一

チュウマン ヨシカズ

- 57歳
- 出身組織名／ヤマハ労働組合豊岡支部
- 役職名／支部執行委員長

- ◆モットー／信頼
- ◆愛称・ニックネーム／チュウやん

新会長の抱負について…

浜北・天竜・北遠地区の活動を継承し、地域・地元を大切に作る心を繋ぎます。

最近、「感動」したこと・嬉しく思ったこと…

ロンドン五輪でレスリング金メダル3連覇の偉業を達成した伊調 馨と吉田沙保里選手に感動!

「助け合い」から連想することは何でしょうか？…

人は一人では生きていけない。だから人と人の繋がりを大切に、助け合いの輪を広げること。

ご当地イチオシの〇〇を教えてください。…

浜北次郎柿は日本一! ビタミンC豊富でタンニンの作用で風邪や二日酔い予防に効きます。

がんばって!!



ロッキー奨学基金 授与式

左から加藤ろうきん理事長、吉岡労協理事長、奨学金を授与された学生さん2人、木苗学長



県労福協では、2012年4月に創設した「ロッキー奨学基金」による第1回の奨学金授与式を8月10日(金)に静岡県立大学で行いました。授与式には、静岡県立大学の木苗直秀学長、丹治健一学生部長、学生2名、県労福協の吉岡秀規理事長、県労金の加藤幸博理事長などに参加いただきました。

「ロッキー奨学基金」は、県労金の会員より拠出され創設した「地域役立資金」の内、県労福協が管理している「人づくり資金」の一定金額を基金とした運用益を活用した奨学金制度です。今年度は、県内3大学を対象に各3名の奨学生を公募した結果、8名(静岡大学2名、県立大学3名、静岡文化芸術大学3名)に各20万円の奨学金を給付しました。奨学金の対象者は静岡県内に在住もしくは勤務する勤労者の子弟で経済的支援が必要と認められる学生、奨学金は返還不要の給付制度。いずれの学生も各大学から推薦いただいた優秀な方達です。

贈呈式では吉岡理事長から木苗学長へ目録が渡され、木苗学長から「大変感謝しております」とお礼のお言葉を頂きました。出席した学生さんからもお礼の手紙が読み上げられました。

この奨学金制度は次年度以降も対象大学を増やし、厳しい経済環境の中で勉学意欲がある子弟への支援策として継続的に実施してゆく計画です。

県ボランティア協会へ九州北部豪雨被害で 45万円を寄付



吉岡理事長(右)より神田理事長(左)へ

県労働者福祉協議会 (事業団体責任者会議)

県労福協では、県内のろうきん・全労済など8団体と連携し、九州北部豪雨災害ボランティア支援募金を募り、8月20日に約45万円を県ボランティア協会に届けました。

7月12日からの豪雨で熊本市や阿蘇市などでは大量の土砂が住宅地に流れこむ被害が相次ぎました。特に熊本市北区内を流れる白川の堤防を越え激流が新興住宅地を襲い、およそ500戸の住宅が床上浸水しました。

県ボランティア協会が被災地へ災害ボランティア活動の現地視察をしたところ、必要な資機材は確保されているが、各災害ボランティアセンターから猛暑の中の活動でもあり、熱中症対策の要望が出されていました。

そこで県ボランティア協会では”できる活動をしよう”と、災害ボランティアで活動する方のためにスポーツ飲料など必要な物品購入に充ていただくための「支援募金」を組織することになり、県労福協も事業団体責任者会議にはかり協力することを決め、役職員に募ったところ短期間に約45万円が集まりました。

当日は県労福協の吉岡理事長が代表して県ボランティア協会の神田理事長に「頑張っている方々にすこしでも役に立てれば。一日でも早く届けてほしい」と目録を手渡しました。神田理事長からは、「非常にありがたい。大震災以来、募金疲れしている中、多額の支援をいただきました。熊本市と阿蘇市の社会福祉協議会に早く届けるようにしたい」とおっしゃっていただきました。